



見本市におけるJOTAROブースのためのテキスタイルデザイン

## 挑発のテキスタイル

デザイナー 齊藤上太郎

「挑発のテキスタイル」とは私が創るテキスタイル全てのテーマです。

見る人、使う人のイマジネーションに訴えかけ、新たなタレント(才能)やプロダクト(商品)に出会い、共鳴してトレンドや空間を創り出す。そんなテキスタイルを創っていきたいのです。

現在私は、キモノデザイナーとしての活動と、インテリアプロダクトとしてフアニチュアの張生地やインテリア壁装クロス等のデザインと、同じテキスタイルではありますが全く違う分野での活動をしています。

キモノは本来、顧客のオーダー寸法で仕立てられます。言うなればクチュールの資材として私の制作した反物(テキスタイル)が届けられるのです。キモノ以外のテキスタイルもインテリアデザイナーやプロダクトデザイナーとの協業で最終製品は私の手から離れたところで仕立て上げられます。ですから、この限られたテキスタイルデザインという範囲の中で「挑発」する快感を楽しみ、クリエイターや顧客達に挑戦しているのです。

私の創るテキスタイルは資材であり、工業製品です。アートではありません。

ですが、この工業製品であるということが私の誇りでもあるのです。なぜならクリエイティブティとクオリティを高い次元で両立させることが「挑発」の第一条件であり、一番の難関で

もあるのです。「挑発」によって人々のイマジネーションを刺激することができれば可能性はほとんど広がります。

そして私らしい「挑発」をするため、原点であるキモノの発表を2002年より東京コレクションにキモノオンリーのファッションショーという形で毎年参加することにしたのです。

理屈ではなく自分のできること、得意なことを見つめ直して掘り下げる。そうしてやっとならぶと同じ土俵に立つことができるのです。「勇氣」「信じる」ということが簡単なことのように一番難しい。

テキスタイルの仕事は自己完結できないからこそ面白い。自己完結ではないからまた違った可能性も方向性も自分の意図しなかった発想も生まれてくる。

テキスタイルにおけるビジネスやデザインは、モノのあふれた現代にとってありとあらゆる可能性をもたらします。

ギンギラギンにさりげなく。私、今コレです。

**SAITO JOTARO** 1969年 京都生れ。「洋」と「和」双方で才能を発揮すると共に衣裳制作、国内外の高級レストランのインテリア制作など多方面に活躍。ファッションとしてキモノを提案する注目のデザイナーとして、テレビ、雑誌などのメディアでも脚光を浴びている。昨年9月、日比谷にオープンしたペニンシュラホテルのメインロビーセンターベンチのテキスタイルも氏の作品。



2008 コレクション「GOTHIC CAMELLIA」から、ゴシック調の椿柄と手描きチェックの組合せ



昨年のコレクション「百鬼」からのカット、フィナーレの振袖



エースとのコラボレーションで制作したローリィバッグ



メルクロスとのコラボレーションで制作したフロアスタンド。絹をベースに銀糸と透明のフィルム状の糸で変化をつけたシェード



ロックストーンとのコラボレーションで制作したソファ。張生地はモール糸と金糸で表面変化をつけた。柄は古典文様の「むしな菊」